



## 大分県書道

令和7年4月号 No. 418

### 「コタキナバル紀行」

今回は書道と全く関係のないお話です。

自由な時間ができたら旅をしようと思っていました。そんな時間はきそうにないので、ひとまず全ての仕事を放り出して、コタキナバルに行ってきました。コタキナバルと聞いてピンと来る人はかなりの地理通ですね。

コタキナバルはマレーシアの一部市です。マレーシアというとマレー半島にあるシンガポールの北に位置するというイメージですが、コタキナバルはそちら側ではなく、南シナ海に浮かぶボルネオ島にあります。本来行くはずのない所ですが、妻の教え子が領事館に勤務していて、「三月に帰国するので、その前に一度おいでください。」とやっていただいたので、こんな機会はめったにないので訪ねたわけです。日本からの定期便はなく、福岡空港を出発して韓国経由か中国経由になります。私は韓国経由を選択しました。ちなみに、行きは私たち以外は一名の日本人、

帰りは私たち以外はみんな韓国の方でした。文字数に制限がありますのでかいつまんでコタキナバルを紹介します。

(1)コタキナバルの人は陽気で、日本人大好き

私が日本人と分かんると、「こんにちは。」「ありがとう。」と知っている日本語を話して、コミュニケーションをとろうとします。ラテン系のノリの人が多い印象です。

(2)道路の横断は命がけ？

「交通ルールはあって、なきがごとし。」歩行者用信号もあります。が、車用の信号と連動しているのか最後まで不明でした。

(3)イスラム教徒が多いので、お酒は飲みません。

レストランのメニュー表にアルコール類は載っていません。ただし持ち込みはOKとかいてありました。ちなみにモスク見学に行くとイスラム教の正装を着せられました。

(4)海はエメラルドグリーンでハワ

理事 那賀修司  
(思齋)

イ、夕日は絶景というキャッチフレーズはウソ？

海はハワイというより臼杵の黒島、夕日は連日のスコールでついで見ることはできませんでした。一回目の当たりにして真玉海岸の夕日とどちらが上か、比べてみたかったです。

(5)コタキナバルの朝は早い

気候のせいと思うのですが私が目覚めると、ホテルの隣の工事現場はすでに作業していました。その分終わりも早く労働時間は短いようです。

今回の旅を通してお国柄や民族性の違い、暮らしぶりを知るとともに、場所は違えどみんな一生懸命生きていくのだなあということを実感しました。そしていつものように日本の良さ、すばらしさも再認識することができた旅でした。日本人がたくさんいる旅は安心感がありますが、ほとんどいない旅もスリルがあつていいものです。みなさんも一度コタキナバルへどうぞ。